

江戸城を歩いて

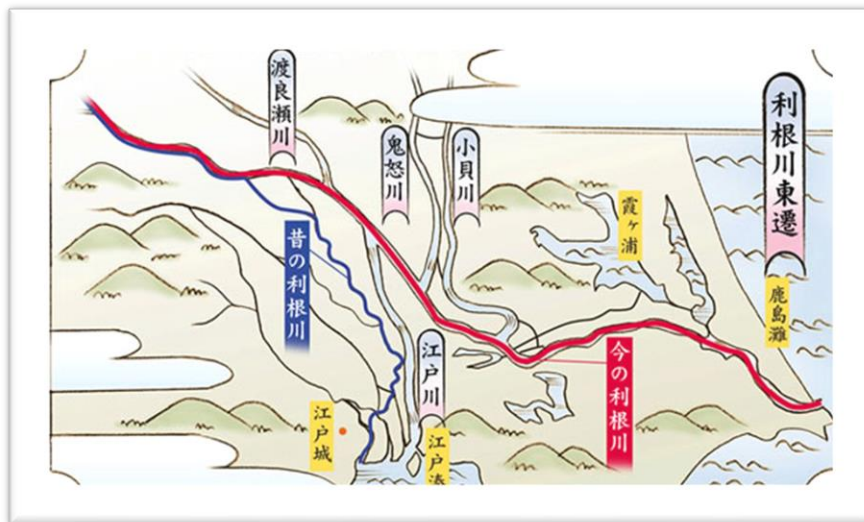
2017 年 3 月（2018 年 12 月追記）

我部山民樹

江戸城ウォーキングツアーに参加する。ツアーでの説明を受けたが、予備知識が乏しくて、理解不足なので、さらに調べてみた。

・江戸と江戸城の歴史

徳川家康が豊臣秀吉より関東八か国に転封の命令を受け、‘小田原ではなく、江戸を拠点にしては’との話が出た。三河を取り上げられた上に、大坂から遠ざけられ、更に農村の江戸に拠点を置くことに家臣団は反発したが、家康は受け入れた。秀吉は出来るだけ遠ざけるということだけではなく、東北の伊達や上杉他の外様大名を治めるには小田原ではなく江戸の方が良いとの理由だったという話もある。この後、秀吉は‘家康殿は律義者’と称え、信任を更に厚くしたと言われている。



そして天正 18 年 7 月（1600 年）に江戸入りした。当時は東側の大部分は湿地帯で海に浸った葦の茂る野原であり、町や屋敷を備える余裕もなかった。現在の大手町辺りまで日比谷入江（現在の江東区、中央区辺り）が入り込んでおり、その東には江戸前島と呼ばれる半島があった。入江の先に小高い丘（30m）があり、そこに小さな城（のちの江戸城辺り）があった。太田道灌（のちに川越の城主となる）の築いた城であった。海に近く物資の輸送も便利なので、そこを拠点に町作りをすることにした。まず、江戸前島に日比谷入江と東京湾をつなぐ道三堀と言われる水路を築いた。東京湾と町をつなぐ輸送手段となり、併せて、湿地帯の水分を掘りに取り除いて土地を乾燥させて宅地や農地にした。

さらに神田山を削って、日比谷入江を埋め立て、江戸の町を作った。(現在の中央区、港区、千代田区辺りが江戸である。)



評価基準	江戸	小田原
秀吉との関係	○	△
開発の度合い	×～△?	○
治水などの負荷	×	○
領民の治めやすさ	△?	×～△
産業の発展度合い	×～△	○
関西への距離	△	△～○
八ヶ岳の中心としての利便性	○?	△

しかし、町人や職人がなかなか集まらなかったため、家康は日本一の城を築いて、それをランドマークとして人集めすることにしました。江戸城は高さ55mで大坂城の48mをしのぐ日本一の城であった。のちに2代将軍秀忠が城を建

て直し、さらに3代将軍家光も建て直したが（各将軍が自分の城を建てたかった。）、5代将軍綱吉の時に明暦の大火（1657年）で焼失してしまって、その後築城はされていない。築城のための資金を火災からの復興に転用したためである。



天守台

高さ11mの天守台（石垣）が残されている。その後は富士見櫓が天守閣の役割を果たすことになった。この時の火事で江戸の町の約6割が消失し、人口約50万人のうち約10万人が死亡したと伝えられている。家康が墨田川を天然の堀と考えていて、橋を架けてなかったのも、多くの人が避難できなくて大惨事になった。そこで、両国橋を作り、災害時に避難できるようにした。

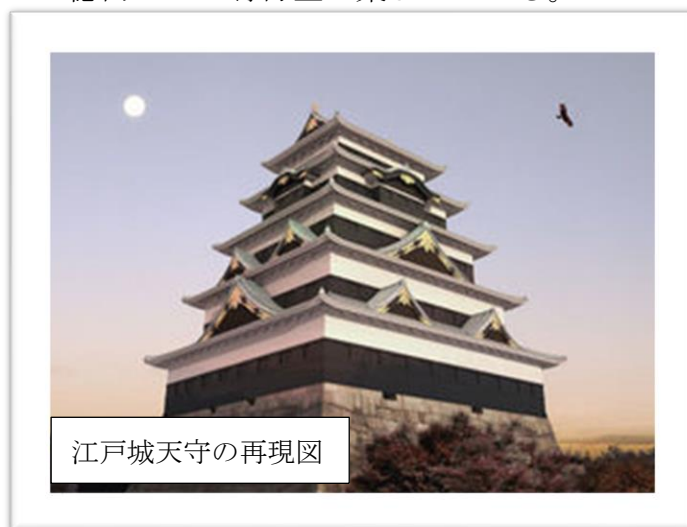


両国橋

また、道路を拡張して延焼防止して、避難場所を作る（例として、日本橋の魚市場を築地に移転し、避難場所とした。）等の防災対策を行った。両国橋のおかげで、墨田川の東側が新たな宅地となり、江戸はさらに発展し、わずか100年ほどで100万都市となり、当時、世界最大の都市に変貌した。

家康の決断と開拓方針がその後の日本の発展におおいに貢献したと言える。

現在、民間による江戸城の再築城の計画がある。400 億円ほど必要と言われていて、すでに 30 億円ほどの寄付金が集まっている。



家康の築城した江戸城の図面が残っていて、それによる CG が作られている。(先人たちの底力 知恵泉 東京を魅力的な町にするには！江戸物語)

・本丸御殿

総面積 1 万 1 千坪であり、15 棟、多聞 15 棟、書門 20 数棟で 800 ほどの部屋があったが、焼失した。幕府の行政の場の表向き、将軍の公邸の中奥向、将軍の私邸の大奥に分かれていた。図面が残されていて、それをもとにして CG で本丸御殿を再現している。(よみがえる江戸城)

・大奥

本丸御殿のうち、将軍の私邸を大奥という。面積 4 千坪であり、3 代将軍家光の時に春日局が作った。家光は男色家であり、女性を寄せ付けなかったため、後継者作りを目指し、多くの女性を集めた。おかげで後継の家継や綱吉等が生まれた。

春日局の好みで教養があるとされる京や大阪の女性を多く集めたと言われている。家光の気を引くために、坊主にしたり、男装させたりしたと伝えられている。200 人ほどの女性がいたが、御手付きは 30～40 人程度だったらしい。

綱吉の生母のお玉（桂昌院）は八百屋の娘であったが、母親が武家の後添えとなり、その縁で大奥に入り、ついには将軍の生母になった。‘玉の輿’の語源である。

・二重橋(西の丸下乗橋)

江戸時代では奥に見える木造の橋が、二重の橋桁であったので、二重橋と言われていた。明治になって建て変えた鉄製の橋は二重構造では無かったので、奥と手前の二つの橋を合わせて二重橋と称している。



二重橋

・伏見櫓

1国1城令により、京都は二条城を残した。伏見城が廃城となり、江戸城内に移築したので、その名を遺した。



・桜田二重櫓



江戸城で唯一の隅櫓である

- ・大名屋敷等の立地場所

丸ビル 池田輝政 31.4 万石

日生ビル 細川藩 54 万石

国会議事堂 彦根藩井伊家

有楽町フォーラム 土佐藩

文京区東大 前田藩 赤門は徳川家の姫が輿入した印。他の赤門は現存していない。他は消失してしまった。

六本木 長府藩

毎日新聞社 江戸城の米蔵のあったところ

- ・大名行列

100 万石の前田藩は 600 人ほどのお供を連れていた。桜田門外で井伊大老が暗殺されたときには行列の後方はまだ、井伊家の中にいたと言われている。

- ・大手門

江戸城の正門で、天守出入口

No.1 の門であり、大手企業の名の由来である。



- ・内桜田門(桔梗門)

三の丸への出入口

ここに城を構えていた太田道灌に因み、その家紋である桔梗の紋が付けられたことから、桔梗門ともいう。

死没：1486年8月25日

太田 道灌は、室町時代後期の武将。武蔵守護代・扇谷上杉家の家宰。摂津源氏の流れを汲む太田氏。諱は資長。太田資清の子で、家宰職を継いで享徳の乱、長尾景春の乱で活躍した。江戸城を築城したことで有名である。 [Wikipedia](#)

No.2 の門である

- ・坂下門

坂下門橋



内濠の蛤濠と二重橋濠の間に架かり、皇居外苑から皇居(旧江戸城西丸)に通じる土橋です。門内の近くに宮内庁があります。坂下門は江戸城西丸造宮直後に造られたと伝えられています。西丸大奥に近く、西丸の通用門として利用されていましたが、今は宮内庁の出入口として利用されています。文久2年(1862)1月、老中安藤対馬守がこの門外で水戸浪士に襲われた「坂下門外の変」は有名です。

隙間なく積み上げる切り込みはぎと呼ばれる美しい石垣が残っている。

- ・百人番所

甲賀組、伊賀組、根来組、廿五組の交代で警護に当たった。

各組の同心が百人ずつ所属していた。

本丸出入口

- ・高麗門

消失したが、鯰だけが残っている。

- ・下馬場

現在黒松のある大手門前は大大名の下馬場で、家来はここで待機した。

そこで、待ち時間に噂話に興じた。下馬評の語源。

石高の低い小大名の下馬場は遠くにあり、中には浅草辺りだった藩もある。

- ・下乗橋

大名が駕籠から降りて歩いた所

- ・北の丸公園

慶長12年(1607年)に造営された。江戸城の初めごろは、家康の側室‘お勝の方’や駿河大納言徳川忠長(家光の弟)の屋敷があった。‘お勝の方’は家康より金蔵の鍵を預かった側室。

- ・行幸通り(東京に遷都後)

皇居から東京駅まで、

天皇が新幹線に乗る時の専用通路。

丸の内駅には専用の門とホームまでの専用通路がある。

以上